



本事業は、SDG s の「17 パートナーシップで目標を達成しよう」に資する取組です。

2025 年 4 月 12 日（土）
愛知県政策企画局国際課
国際戦略グループ
担当 野村、富田
内線 2448、2198
ダイヤルイン 052-954-6130
愛知県経済産業局海外連携推進課
海外連携グループ
担当 中野、林、片寄
内線 5189、5181
ダイヤルイン 052-954-7474

知事の米国渡航中の行事結果について

2025 年 4 月 10 日（木）午後、知事は米国テキサス州オースティンにて、テキサス州立の 9 つの大学と 5 つの医療機関を統括するテキサス大学システムのジェームス・ミリケン総長やスタートアップ支援関係者と面談しました。

翌 11 日（金）午前、知事は米国テキサス州サンアントニオ市において、ロン・ニーレンバーグ サンアントニオ市長と面談しました。その後、同市内にあるトヨタ自動車のサンアントニオ工場を訪問しました。午後には、ピーター・サカイ ベアー郡長官と面談し、その後、^{しらねなおこ}白根直子氏の日米交流における功績を記念して設立された白根直子記念財団を訪問し、ヘンリー・シスネロス会長と面談しました。

1 テキサス大学システム総長等との面談

（担当課：海外連携推進課）

（1）日時

2025 年 4 月 10 日（木）午後 0 時 30 分から午後 2 時まで

（日本時間 4 月 11 日（金）午前 2 時 30 分から午前 4 時まで）

（2）場所

テキサス大学システム総長公邸（オースティン市）

（3）面談者

ジェームス・ミリケン テキサス大学システム総長

ランダ・サファディ テキサス大学システム副総長（渉外、サービス推進担当）

ジュリア・ラスゲバー テキサス大学システム副総長（政府関係担当）

マーク・アーノルド テキサス大学システム Discovery to Impact（産学連携部門）副学長、テキサススタートアップ協会会長

トム・ファレル テキサス大学システム総長上級顧問（国際担当）

ケビン・ラランド サンテベンチャーズ（ベンチャーキャピタル）創業者、社長兼最高投資責任者

ゴードン・ドーハティ キャピタルファクトリー（コワーキングスペース、アクセラレーター）共同創業者、会長

アミール・フセイン スパークコグニション（AI スタートアップ）創業者、社長

（４）愛知県側出席者

大村秀章知事

（５）内容

大村知事は、愛知県と連携するテキサス大学オースティン校を始めテキサス大学傘下の各校や MD アンダーソンがんセンター等を統括するテキサス大学システムの総長公邸を訪問し、ミリケン総長を始め、副総長、テキサス州で活動するスタートアップ支援機関の代表や起業家と面談しました。

始めにミリケン総長から「スタートアップ支援、イノベーション促進の先進的な取組を進めている大村知事を迎え、意見や経験を共有できることを大変うれしく思う。本日は、愛知県の STATION Ai が進める取組について多くを学びたい。」と歓迎の挨拶がありました。

大村知事は、「テキサス州と愛知県は、2016 年に『友好交流及び相互協力に関する覚書』を締結し、以降 9 年にわたり幅広い分野での交流を重ねている。2018 年からは、テキサス大学オースティン校とスタートアップ支援の連携事業に取り組み、オースティン・エコシステムのノウハウを共有してきた。こうした交流で得た知見が STATION Ai の活動につながっている。」と話しました。また、大村知事は、「STATION Ai では、モノづくり分野だけではなく、AI、エネルギー、水素、ヘルスケアなど最先端のイノベーション創出を支援するとともに、ファンドによる資金提供も行っている。MD アンダーソンがんセンターとも連携を始めており、来週月曜日に訪問し、意見交換を行うこととしている。また、愛知県にある名城大学は、先週、テキサス大学ダラス校と連携の覚書を締結するなど、両地域の交流はますます深まっている。」と話しました。

これに対し、AI スタートアップを創業したアミール・フセイン氏から「連携促進には、行政の中に大村知事のようなリーダーシップの力があることが重要。愛知県との交流はとてもエキサイティングであり、自分も連携の強化に協力したい。」との発言がありました。

また、ミリケン総長から、「MD アンダーソンがんセンターとの連携は素晴らしいこと。テキサス大学サンアントニオ校には医学部があり、医療分野でも優れた研究が行われている。また、テキサス州副知事が代表を務める、医療分野を支援する 30 億ドル規模の基金設置の計画がある。」と最新プロジェクトの紹介がありました。

最後に、大村知事は、「先ほどアボットテキサス州知事にお会いし、両地域の連携をさらに深めていくことについて話し合ってきた。愛知県は、STATION Ai をアジア No.1 のイノベーションハブとすることを目指しており、今後もテキサス大学システムとの交流、連携を継続・発展させ、イノベーションの促進を通じて両地域がともに発展することに取り組んでいきたい。」と話し、面談を締めくくりました。

【テキサス大学システム概要】

大学システムとは、地理的に分散している複数の大学等の集合体であり、構成機関は、システム全体を統括する評議員会や理事会等の組織によって管理されている。

テキサス大学システムは、州立の大学システムであり、テキサス州にある9つの大学と5つの医療機関からなる。本部はオースティンに所在し、旗艦校はテキサス大学オースティン校。

【構成機関】

○学術機関（9 大学）

- ・テキサス大学オースティン校
- ・テキサス大学アーリントン校
- ・テキサス大学リオグランデバレー校
- ・テキサス大学タイラー校
- ・スティーブン・F・オースティン州立大学
- ・テキサス大学ダラス校
- ・テキサス大学エルパソ校
- ・テキサス大学サンアントニオ校
- ・テキサス大学パーミアンベースン校

○医療機関（5 機関）

- ・MD アンダーソンがんセンター
- ・サウスウェスタンメディカルセンター
- ・ヒューストン健康科学センター
- ・サンアントニオ健康科学センター
- ・テキサス大学医学部ガルベストーン校



ミリケン総長等との面談の様子



出席者の皆さんとの記念撮影
(1列目右から2番目がミリケン総長)



ミリケン総長と記念品交換

2 サンアントニオ市 ロン・ニーレンバーグ市長との面談

(担当課：国際課)

(1) 日時

2025 年 4 月 11 日 (金) 午前 9 時から午前 10 時まで

(日本時間 4 月 11 日 (金) 午後 11 時から 4 月 12 日 (土) 午前 0 時まで)

(2) 場所

サンアントニオ市庁舎 (サンアントニオ市)

(3) 面談者

サンアントニオ市 ロン・ニーレンバーグ市長

(4) 愛知県側出席者

大村秀章知事

(5) 内容

大村知事は、人口がテキサス州第 2 位の都市であり、トヨタ自動車など 11 社の愛知県企業が進出しているサンアントニオ市のニーレンバーグ市長と 5 回目の面談をしました。

大村知事は、2023 年 5 月以来のニーレンバーグ市長との再会の喜びを伝えるとともに、トヨタ自動車がサンアントニオ工場へ追加投資をするなどテキサス州で 31 社の愛知県企業が地域の雇用創出に貢献し、活発に経済活動を展開していることを説明し、引き続き愛知県企業の事業活動に対する支援をお願いしました。また、先月、愛知県高校生訪問団がサンアントニオ市を訪問した際に、サンアントニオ市政府関係者から温かく迎え入れていただいたことに対する謝意を表しました。

一方、大村知事は、「今回の渡航ではアメリカ連邦議員、テキサス州知事などと面談し、トヨタ自動車を始めとする日本の自動車メーカーはアメリカに大きな投資をしたことで、多くの雇用を生み出してきたことを説明するとともに、引き続きご支援いただくようお願いした。」と話しました。また、「アメリカ政府による関税措置により自動車産業が集積している愛知県や日米の良好な経済関係に大きな影響が出る恐れがあるため、これから始まる日米両政府による協議でより良い解決策が見出せるよう私も日本政府に働き掛けを行うので、ニーレンバーグ市長もご支援をお願いしたい。」と話しました。

これに対して、ニーレンバーグ市長は、「この重要な時期に、知事が訪米し、連邦議員に働き掛けを行うことは非常に重要である。私自身も関税の問題については懸念を抱いており、自由貿易の重要性について声を上げてきた。引き続き、全米の市長やカナダやメキシコとも連携しながら報道機関に対する働き掛けを行うなどして、自由貿易の重要性を訴えていきたい。」と話しました。また、「市長という職務を通じて、日米関係が良好であることが市民の生活に直結していると実感してきた。トヨタ自動車とは 20 年以上にわたって良好な関係を築いており、トヨタ自動車との間で定期的に意見交換を実施し、市としてどのようなことができるか協議している。今後も同社の企業活動が円滑に進むよう、引き続き支援を行っていく。」と話しました。

最後に、ニーレンバーグ市長は、「私の任期は間もなく終わるが、後任にも引き継ぎ、今後も愛知県との良好な関係を継続していきたい。私自身は今後も公共政策に影響を与える役割を担っていききたいと思っているが、大村知事とはいつまでも友人でいたい。」と話し、大村知事に対してサンアントニオ名誉市長に任命する証書を手渡しました。



ニーレンバーグ市長との面談の様子



出席者の皆さんとの記念撮影
(左から 5 人目がニーレンバーグ市長)



名誉市長に任命された証書とともに
ニーレンバーグ市長との記念撮影

3 トヨタ自動車サンアントニオ工場（TMMTX）訪問

（担当課：国際課）

(1) 日時

2025 年 4 月 11 日（金）午前 10 時 30 分から午後 1 時 30 分まで
（日本時間 4 月 12 日（土）午前 0 時 30 分から午前 3 時 30 分まで）

(2) 場所

サンアントニオ市

(3) 対応者

スザーン・カズナス 社長

(4) 愛知県側出席者

大村秀章知事

(5) 内容

大村知事は、2003 年に設立（2006 年操業開始）されタンドラ及びセコイアを生産す

るトヨタモーター・マニュファクチャリング・テキサス（TMMTX）を訪問しました。

大村知事は、カズナス社長から、TMMTX の事業概要の説明を受けた後、工場内の視察とタンドラに乗ってテストコースとオフロードを試走しました。

大村知事は、「今回の渡航ではアメリカ連邦議員、テキサス州知事、サンアントニオ市長などと面談し、貴社を始めとする日本の自動車メーカーはアメリカに大きな投資をし、多くの雇用を生み出してきたことを説明するとともに、引き続きご支援いただくようお願いした。」と話しました。また、「アメリカ政府による関税措置により自動車産業が集積している愛知県や日米の良好な経済関係に大きな影響が出る恐れがあるため、これから始まる日米両政府による協議でより良い解決策が見出せるよう支援もお願いした。」と話しました。さらに、「愛知県としても、貴社を始めとする愛知県進出企業が、米国内において円滑に事業活動を行うことができるよう、引き続きサポートしていきたい。」と話しました。

最後に、トヨタ自動車が増加投資をし、50 万平方フィート（約 4 万 6,500 平方メートル）の敷地に建設中の新たな工場に関する説明や「オンサイトサプライヤー」と呼ばれる敷地内に工場を構える部品メーカーの説明を受けました。

【トヨタモーター・マニュファクチャリング・テキサス（TMMTX）】

北米トヨタ 10 カ所目の工場として開設。「タンドラ」（ピックアップトラック）、「セコイア」（SUV）を同じ生産ラインを使って製造。2024 年生産台数は 202,050 台。

- （1）所在地 テキサス州サンアントニオ市
- （2）設立年月 2003 年 3 月（2006 年操業開始）
- （3）従業員数 約 9,400 人（2022 年 3 月時点。オンサイトサプライヤーを含む）
- （4）5 億 3,100 万ドルを投資し、新たに 50 万平方フィート（約 4 万 6,500 平方メートル）の敷地に、変速機と車軸を結ぶドライブトレイン部品製造施設を建設し、400 人以上を新たに雇用。累計投資額は 47 億ドル。



TMMTX の事業概要説明を受ける様子



TMMTX において製造される「タンドラ」について説明を受ける様子



カズナス社長との記念品交換



カズナス社長との記念撮影

4 ベアー郡 ピーター・サカイ長官との面談

(担当課：国際課)

(1) 日時

2025 年 4 月 11 日 (金) 午後 2 時 5 分から午後 3 時 10 分まで
(日本時間 4 月 12 日 (土) 午前 4 時 5 分から午前 5 時 10 分まで)

(2) 場所

ベアー郡庁舎 (サンアントニオ市)

(3) 面談者

ベアー郡 ピーター・サカイ長官

(4) 愛知県側出席者

大村秀章知事

(5) 内容

大村知事は、サンアントニオ市が所在するベアー郡のサカイ長官と面談しました。

大村知事は、昨年 5 月にサカイ長官が愛知県に来県して以来、今回が 3 回目の面談となることの喜びを伝えるとともに、「本県とテキサス州は 2016 年に『友好交流及び相互協力に関する覚書』を締結し、着実に交流を重ねてきた。」と話しました。

また、大村知事は、2019 年から行っているテキサス大学オースティン校とのスタートアップの育成における連携や、これまで 3 回実施している愛知県高校生のテキサス州への派遣など、両県州の交流事業について説明するとともに、先月に愛知県高校生訪問団がサンアントニオを訪問した際に、ベアー郡庁の方々から温かく迎え入れていただいたことに対する謝意を表しました。

また、大村知事は、トヨタ自動車によるサンアントニオ工場への 5 億 3,100 万ドルの追加投資により、同工場への投資額が累計約 50 億ドルに達し、新たに 400 人以上の雇用が見込まれることを紹介するとともに、「テキサス州にはトヨタ自動車を始めとする 31 社の愛知県企業が進出して事業を展開し、地域の経済、雇用に貢献していることをうれしく思う。愛知県企業とテキサス州との良好な経済関係をこれからも維持、発展させたい。」と話しました。

これに対して、サカイ長官から「ベアー郡と愛知県との間には強い絆がある。日本でお会いした際に、高校生の相互派遣について意見交換を行ったが、青少年の育成や

教育、文化交流は重要であり、ベアー郡、サンアントニオ市と愛知県との間の高校生の相互派遣は是非続けたいと思う。」との発言がありました。

大村知事は、「アメリカ政府による 24%の相互関税と自動車及び自動車部品の輸入に対する 25%の追加関税措置について、本県への影響が大きくなる恐れがある。ワシントンDCでも連邦議員に対して、より良い解決策が見出せるよう意見交換を行った。また、昨日、アボット・テキサス州知事と面談したが、アボット知事からも自由貿易が重要であり、テキサス州と日本との経済関係が発展するようにしていきたいとの発言をいただいた。ぜひサカイ長官始めベアー郡の皆様ともこうした認識を共有したい。」と話しました。

これに対して、サカイ長官は、「私のコミットメントは自由貿易にある。今後、アメリカ政府がどのような決定をしても、我々の日本及び日本企業への関わり方は変わらない。今後もこのようなコミュニケーションを継続し、良好な関係を構築することが重要である。我々のコミュニティに参画する日本企業に対して様々な支援策を講じたい。そうすることで強靱な日米関係を保つことができると考えている。」と発言があり、愛知県とベアー郡との絆の証として大村知事に対してベアー郡名誉長官に任命する証書を手渡しました。

最後に大村知事は、「サカイ長官のご厚意に感謝申し上げます。愛知はHeart of Japanであり、テキサスはHeart of Americaである。愛知県とテキサス州の交流を一層深めたい。そのためにも、ぜひ愛知県を再訪していただきたい。」と来県を呼び掛けました。



サカイ長官との面談の様子



出席者の皆さんとの記念撮影
(左から6人目がサカイ長官)



名誉長官に任命された証書とともに
サカイ長官との記念撮影

5 白根直子記念財団 ヘンリー・シスネロス会長との面談

(担当課：国際課)

(1) 日時

2025 年 4 月 11 日 (金) 午後 3 時 30 分から午後 4 時 30 分まで

(日本時間 4 月 12 日 (土) 午前 5 時 30 分から午前 6 時 30 分まで)

(2) 場所

白根直子記念財団オフィス (サンアントニオ市)

(3) 面談者

白根直子記念財団 ヘンリー・シスネロス会長

同 ビクター・ミラモンテス副会長

(4) 愛知県側出席者

大村秀章知事

(5) 内容

大村知事は、白根直子記念財団のシスネロス会長と面談しました。

大村知事は、2018 年 6 月にシスネロス会長が愛知県に来県して以来の再会、3 回目の面談の喜びを伝えるとともに、「愛知県とテキサス州は 2016 年に『友好交流及び相互協力に関する覚書 (MOU)』を締結し、9 年に渡り、着実に交流を重ねてきている。」と話し、テキサス大学オースティン校と 2019 年からスタートアップの創出・育成に関して連携していることについて紹介するとともに、「これまでに 3 回テキサス州に高校生を派遣しており、オンライン交流も 2 回行っている。先月高校生がテキサス州を訪問した際には、白根直子記念財団の皆様には大変お世話になったことに対し、御礼申し上げます。」と感謝の意を表しました。

さらに、大村知事は、「トヨタ自動車を始めとする 31 社の愛知県企業がテキサス州に進出している。本日、同社のサンアントニオ工場を訪問したが、同社は追加投資により、新たな部品工場を建設中であり、累計投資額が約 50 億ドルになる。また、雇用はこれまでに 1 万人を超え、さらに増える見込みである。トヨタ自動車を含む愛知県企業はテキサス州と大変良好な関係を築いており、これまでに米国において多くの投資をしてきている。そのような中、今回の関税措置は日米の良好な経済関係に大きな影響が出る恐れがあり、テキサス州訪問前にワシントン DC において多くの連邦議員と面談してきたが、これから始まる日米両政府の協議の中でより良い解決策が見出せるよう、各議員に支援を求めた。昨日、テキサス州のアボット知事と面談した際には、自由貿易はとても重要であるという認識を共有したところであり、愛知とテキサスは固い絆で結ばれている。」と話しました。

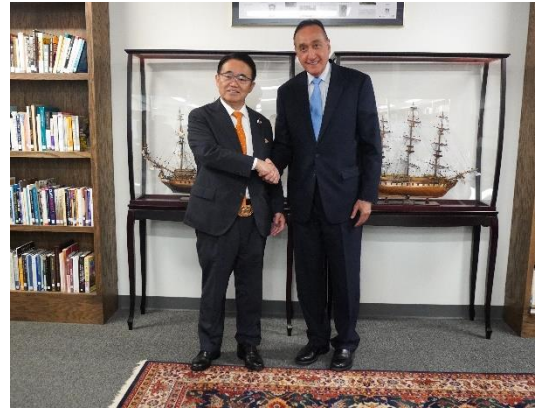
これに対して、シスネロス会長から、「関税措置は米国全体の総意ではなく、交渉の手段の一つであり、そして一過性のものであると考える。日本はあらゆるリソースと時間を使い、我々との友好関係を深めてきており、今後協議をする上で、その友好関係が安定した基盤になる。」との発言がありました。

また、ミラモンテス副会長から、「愛知県においては、当財団の青少年交流事業によ

る高校生の訪日の際にいつも受け入れていただき感謝する。若者の相互交流はとても重要なことである。今年6月にも、9人の高校生が愛知県を訪問予定である。」と発言したことに対し、大村知事は、「皆様の訪問を歓迎する。」と応えました。



シスネロス会長との面談の様子



シスネロス会長との記念撮影

< 白根直子記念財団概要 >

白根直子氏（1926～2013）の日米交流における功績を記念して、2016年7月18日に設立された非営利活動法人。ヘンリー・シスネロス氏（元サンアントニオ市長。クリントン政権で住宅都市開発省長官を務める。）が会長を務める。日米両国間の若者たちの教育、文化交流を目的とし、テキサス州ベアー郡及びサンアントニオ市に在学する高校生のための日本滞在プログラムを提供している。